日本科学者会議

福岡支部ニュース

2011 年 8 月 24 日発行 No.209

http://jsa-t.jp/local/fukuoka/

● 日本科学者会議事務局
〒113–0034 東京都文京区湯島 1–9–15 茶州ビル 9F
Tel (03)3812–1472
● 福岡支部事務局
事務局長　小早川義尚
〒812–8581 福岡県福岡市東区箱崎 6–10–1
九州大学大学院理学研究院生物科学部門
Tel：092–642–3901
Email：kobayakawa.yoshitaka.890@m.kyushu-u.ac.jp
郵便振替 01790-1-5576

目次

1　原水爆禁止 2011 年世界大会・科学者集会の報告　・・・・・・・・・　1
2　第 2 回原発シンポジウム「福島第一原発事故の警鐘と玄海原発」(7/24) の報告　・・・・・・・・・　4
3　「日本の科学者」読書会 5,6 月例会の報告　・・・・・・・・・　8
4　行事案内　・・・・・・・・・　10

1　原水爆禁止 2011 年世界大会・科学者集会@岐阜市・じゅうろくプラザ

2011 年 7 月 31 日 (日)

表記集会に出席したので、要点と印象を記します。参加者数は 150 名以上で昨年の 2 倍以上と思われた。

集会の報告冊子をご希望の場合、その由をアドレス (okamoto@mns.kyutech.ac.jp) 宛にメールで御連絡いただければ、pdf ファイルを送信します。

基調報告「核兵器のない世界への展望と原発から再生可能エネルギーへの転換」　沢田昭二氏 (名古屋大学名誉教授)

報告は次のような内容から構成されていた。

1. 核兵器廃絶を具体化する歴史的転換期
2. 核兵器廃絶条約の交渉開始を求める
3. 未来の人類のために核エネルギーの悪用と誤用から抜け出す
4. 住民の生活基盤復旧を最重点に
5. 放射線の人体への影響
6. 原爆の放射性降下物による被曝影響推定と放影研
7. 悪性新生物の発症予想

最も印象的であったことは、沢田氏が核エネルギーの悪用としての核兵器と、週刊誌のインタビューを別とすれば、今回初めて次の 3 つの理由で誤用としての原発も廃絶すべきと訴えられたことです。すなわち、原発を廃絶するべき理由として、

1) いったん事故が起これば、きわめて深刻な放射線被曝の影響をもたらし、人間の命　と暮らしを脅かすこと、
2) 高レベル放射性廃棄物の処理処分の技術的方法が未確立で、展望もなく、超長期の　隔離管理を不可

避であることは後世の世代へのつけを廻すことで不道徳であること

3) 原発における放射性物質は、国際放射線防護委員会の基準に従って、ある限度以内の放射能として大気中あるいは海水中に放出されていて、原発の運転継続により未来の地球の被曝環境が着実に悪化すること。

ただし、講演内容の多くは核兵器問題、特に、内部被曝を中心とした放射線被曝問題に集中し、自然エネルギーやその本格的導入以前の短期中期的な代替エネルギーについての言及がほとんどなかったのは少し残念であった。

報告 1「『日米軍事同盟』の動向」　伊藤宏之氏 (福島大学特任教授)

基調報告とは対照的に、以下の内容を解きほぐし語りかけるような口調の講演であった。

1) 21 世紀初頭における米国一極派遣の成立と凋落
2) 2010 年 2 月 17 日、日本政府閣議決定「防衛計画の大綱」（第 4 次防）・「中期防衛力整備計画」の歴史的性格
3) 新興国の経済発展と政治的発言力の高揚
4) 小括　現代世界における日本の位置と役割の特異性＝基軸性

印象的が強かったのは、日本国憲法の構造についての図解的分析であり、統治機構とコイ人相互の人権尊重の二つの要素が信託と保障という統治計約で関連づけられている。

海外代表の特別報告「イタリアにおける脱原発国民投票」アンジェロ・バラッカ氏（Angelo Baracca, **フィレンツェ大学教授）**

・同氏は統計物理学者で数十年にわたり、核兵器と原子力発電に反対する運動に関わってきた。

報告原稿題名は

The ominous shadow of the Atomic Age: an experience to phase out forever

であった。本人が適当なところで区切って英語で話し、直後に日本通訳がおこなれる、という手順で行われた。

追加資料として「日本における原発事故の深刻なる実態」（日本語訳）も配布された。）　この資料については、外国の研究者も福島原発事故の情報をよく収集分析していること、原発から再生可能エネルギーへのつなぎ候補としての gass-combined cycle の活用も指摘したことなどが印象的であった。

報告 2「福島原発事故―惨禍の地域社会」清水修二氏（福島大学副学長）

1) 1. 特異な性格をもつ放射能災害
2) 被害の範囲と時間軸
   (1) 農林水産業、(2) 中小企業、(3) 人口流出と教育の未来、(4) 危機に立つ地方自治
3) 引き裂かれる地域社会
   (1) 農業者と消費者の苦悩、(2) 避難をめぐる葛藤、(3) むしばまれる地域社会
4) 日本の中の福島
   (1) 首都圏への電力供給県ふくしま、(2)「フクシマ」の選択」
5) 終わりに。

・現地に身を置いてみないとなかなか実感できないと思うが、放射能汚染に見舞われた福島現地の住民のストレスは尋常なものではない。

報告 3「内部被曝の危険性 (1)　物理学的側面」矢ケ崎克馬氏（琉球大学名誉教授）

・同氏報告の題名自身は放射線の健康への影響―国際放射線防護委員会（ICRP）によって仕組まれた罪深い欠陥―であった。

1) ICRP によって仕組まれた欠陥
＜１＞被曝評価の基準は内部被曝と外部被曝で全く違う
2) 放射線の作用―内部被曝の危険
＜２＞放射線の作用は「電離」
＜３＞電離は分子切断
＜４＞ DNA の切断はきわめて有害
＜５＞内部被曝は特に危険な被曝
3) 放射線障害の隠ぺいと ICRP
＜６＞原爆投下後のアメリカ政府により、「被爆地に放射性の埃は無かった」と事実とは違う虚偽の処理をされました。内部被曝が隠されたわけです。
＜７＞国際放射線防護委員会の基準は内部被曝無視と功利主義
＜８＞チェルノブイリ後には多量の健康被害が生じている
4) ICRP からの脱却が被曝地獄からの脱却
＜９＞ ICRP に従う人たちよ！　いい加減に目覚めて下さい
＜10＞汚染された土地での生産物は「売るな、食べるな」、太平洋側の海産物は「獲るな、食べるな」‐住民の被曝回避の措置こそ直ちに実施すべき
＜11＞忌まわしいアメリカ核戦略追随に終止符を

（訴え＜10＞については報告 2 を行った清水修二氏は批判的な意見のようであった。）

報告 4「内部被曝の危険性 (2)　医学的側面」―放射線医学と疫学に基づく内部被曝健康影響研究の到達点と課題―　　松井英介氏（岐阜環境医学研究所所長）

- ICRP に独立した、ヨーロッパの研究者 (医学者、物理学者など）によるヨーロッパ放射線リスク委員会（ECRR）の報告書 2 版
- 放射線照射を直接受けなかった細胞への間接的効果（バイスタンダード効果）
- 人口 10 万人あたり各種疾患患者の経年変化における、チェルノブイリ原発事故の影響の大きな可能性
- 低線量被曝における ECRP,ICRP と日本政府によるリスクモデルと見解の違い
- カール・モーガン「原子力開発の光と影」

引用文献　松井英介「見えない恐怖‐内部放射線被曝」、旬報社、2011 年。
（チェルノブイリ原発事故による、先天性四肢症の写真は短い時間の映写に反比例して強烈なショックを受けた。）

報告 5「高レベル放射性廃棄物地層処分問題から見た原発の犯罪性ー岐阜県における超深層地処分反対運動ー」、古瀬和寛氏（東濃・下伊那とその下流域を核のごみから守る連絡会会長）

1) 美しい自然を壊さないでほしい
2) 瑞浪超深地層研究所の動きについて
3) 原子力発電そのもののこと。

総合討論

・一般市民の立場から、「核エネルギーをめぐる歴史的展開の年にあたり、学問の独立性、科学者の社会的責任・道義的責任を語ってほしい。できれば、この会場からもどなたか応答してほしい。科学者、特に、理科系の人は、純粋な好奇心から研究を進め、それが結果的に社会にどのような影響を与えたかについては関心が乏しいと感じる」

沢田氏による回答：自分の報告レジュメにも書き、報告したつもりであるが、世界的にはラッセルアインシュタイン宣言など核兵器反対運動も行っていた。国内では、湯川・朝永・坂田・武谷博士らの、原子力開発慎重論

(時期早尚論）もあった。

（私はこの市民と意見交換した。同氏は、2010 年集会の野口邦和氏の報告「原子力平和利用と核拡散」の中の、「第二に。原子力発電の開発技術と核兵器の開発技術は、ウラン濃縮や再処理という共通する部分はあるにしても基本的には別物である」という認識が正しくないと批判した。）

（質疑応答についての感想と懸念：一般市民からは「科学者」という言葉からは、その中の研究分野や、歴史的関与の経過や、現時点における圧倒的多くの科学者が社会的関心 (したがって社会的責任や道義的責任という意識）は希薄という現実が理解されにくい。また現役の研究者、大学教員が業績主義、評価制度の下に置かれている現実もほとんど理解されていない。その中で、科学者会議に結集している科学者は不十分ながら努力しているということを理解している市民も非常に少ない。このような社会的理解の現状において、運動の中で、説得力のある説明が不足すれば、御用学者の動向だ主として報道されているので、市民の一部に科学者への不信・反感が増加する可能性を否定できない。）

会場であった旧知の人々

- 大学院生時代に若手運動にかかわった名大旧坂田研究室 OB の N 氏。
- 1986 年のチェルノブイリ原発事故の赤表紙のパンフレット（福岡支部発行）に感激したことを語ってくれた林　弘文氏（「日本の科学者」、6 月号の巻頭言執筆者）

（2010.8.19　岡本記）

2　第 2 回原発シンポジウム「福島第一原発事故の警鐘と玄海原発」(7/24) の報告

RKB, TNC および地元ケーブル TV の取材もあり，100 名あまりの参加がありました．当日発表に使われたパワーポイントファイルはホームページ
http://web.me.com/emiyoshi3/JSA_Fukuoka/Nuclear/entries/2011/7/24_symposium7_24.html
をご参照下さい．

福島原発事故に関連して４月に開催した緊急シンポジウムは，福岡市の中心街の会場で行ったこともあり，予想外の多数の参加者がありました．しかし，会場の狭さから後からの数十名にはレジュメだけをお渡しして，お帰りいただいた．この反省から今回は大きな会場を確保しました．会場が市の中心から離れたこともあり，どれだけの方が参加してくれるか心配したが，100 名を超える参加があり，ひとまず成功したと考えています．一方では４月の緊急シンポジウムに来られた多くの方が今回は不参加であったのは会場のせいかもしれません．しかし，このことは今回の参加者の多くが新しい層であったことを意味し，全体としてみればよいことであったのかとも思います．

今回のシンポジウムでは，はじめにカネミ油症問題で有名な長山淳哉氏（九大医）が「食品の放射能汚染から家族をどう守るか」という講演をされました．講演では，被曝した動物にミネラルの豊富な海藻や貝類の摂取が有効だとする実験的研究を紹介され，内部被曝に際してミネラル分の摂取の重要性を指摘されました．次に豊島耕一氏（佐賀大理工）が「老朽化した玄海原発１号機は大丈夫か」というタイトルの講演で，玄海原発１号機の炉心材料の脆性遷移温度が 98 ℃であり，玄海原発１号機は日本で一番危ない原発であるという話しをされました．最後に岡本良治氏（九工大）は「福島第一原発は地震では壊れなかったのか？」という講演で，津波が来る前に地震動により配管が損傷した可能性が高いという話しをされました．そうであるなら地震列島である日本のどこでも今回のような過酷事故が起きる危険性があることを意味します．

アンケートの結果によれば，参加者の多くはこの危険性の意味を強く感じたようです．「メディアでは聞けない話を学べた．次回もぜひ参加したい」（男性 20 代）の感想がありました．

＜アンケートの結果＞

- アンケートの回収率は約６割でした．
- 参加比率は女性 46%，男性 54%．

- シンポジウムについての情報源は，友人・親族から 36%, 新聞から 29%, ウェブサイトから 10%, メール 15% などでした．
- シンポジウムについての感想は，大変有用 61%, まあまあ 20%, 無回答 19% でした．
- 代替エネルギーとして関心のあるもの（複数回答可）
  太陽光発電 (61%)，風力発電 (53%)，地熱発電 (46%)，小水力発電 (37%)，太陽熱発電 (31%)，潮流発電 (44%)，その他 (5%)

その他，＜自由記述＞の欄に多くの意見が寄せられました．これらの内容が豊富であり，かつ，主催者側からの回答を要するものもありましたので，個人名などのある部分は割愛するなどの配慮をしたうえで以下に掲載させてもらいます．

- 「原子炉容器が長い間大量の中性子照射を受けて，硬く脆くなる」ということを知り，一層「原発」を止めるべきだと感じた．いろいろな資料を読んだり，TV を見たり，新聞に記載されている「原発」に関するものを読んだりしているけれど，事実はどうなのかとわからなくなってしまう．でも命を守るためには代替エネルギーを真剣に考えていく必要が大いにあると考えています．（女性，70 代以上）
- 玄海 1 号機のデータを公表しない九電，それを許している原子力安全・保安院に怒りを感じた．私自身が何をすべきかを問われました．非常に有意義な時間でした．ありがとうございました．（男性，60 代）
- 原発の危険性について出来るだけダイレクトに人に伝えられるにはと近場の講演会に足を運んでいます．これからも続けていきたいと思います．今日は有り難う御座いました．（女性，40 代）
- 原発は海温上昇装置でもある．（男性，60 代）
- 新エネルギー研究をしています．石炭，石油のように次の代替エネルギーにこれというものはないと考えています．しかし太陽光・風力・地熱・小水力・太陽熱・潮流などの発電をうまく MIX して使えば代替石油エネルギーになり得る可能性はあると考えます．ただし，国民全体が節電・節エネルギーをすることが前提です．（女性，40 代）
- 原発のあとに残る高放射能物質の処理について今のところほとんど解決策がないまま原発（の運転）が行われているわけですが，このことについてどのように考えておられますか？（女性，60 代）
  【主催者からの回答】日本は脱原発の路線で行くべきと，私たちは考えています．理由の一つは，今回のような過酷事故の危険性を排除できないこと，もう一つは，高濃度放射性廃棄物の最終処分が決まっておらず，未来に地球上で生活していくわれわれの子孫にとんでもない「負の遺産」を残すことになるからです．これ以上，その「負の遺産」を増やすことは止めなければならないと考えています．
- 原発がなくても暮らせる社会をめざしたいと思っています．（女性，60 代）
- テレビでは津波のためと原発事故をとらえているのですが，地震のために事故が起こっているのではと思っていたので，今日は勉強になりました．地震列島である日本には原発はそぐわないと思いました．（女性，60 代）
- 福島の原発事故が起きるまえにみんなで「原発の恐さ」について勉強すべきだったと思います．（女性，60 代）
- 科学者としてぜひ活発に動いて下さい．（女性，60 代）
- 初めてこういうシンポジウムに参加しました．すごく為になりました．（女性，30 代）
- 現在の日本の状況の危険をもう少しゆっくり詳しく素人にもわかるように話してほしい．解りにくいところもあったけれどかなり理解でき有意義でした．次回を期待します．（女性，60 代）
- 代替エネルギー論議が盛んであるが，それよりか，現在の消費エネルギー社会をまず問うべきではないか．代替エネルギー論に関しては，全面的に賛成したい．ただ，新たな利権が生まれる可能性も？（女性，60 代）
- 一般市民（特に原発問題にあまり興味のない人たちでも）が参加しやすいシンポジウムをもっと開催してもらえたら有り難いです．アクセスに便利な場所で開催してもらえて有り難かったです．（女性，30 代）
- 科学者が進めてきた原子力技術を転換させていくために日本科学者会議が果たす役割は大きいと思います．ぜひこれから日本や世界に向けて発信して頂きたいと思います．（女性，50 代）
- みなさん，がんばっておられますね．おかげで元気をもらった気がします．熊本から来た甲斐がありま

した．熊本に戻って私もがんばります．（女性，40 代）

- 今まで学ぶ機会も関心もなかったので，代替エネルギー（太陽光・風力・地熱・小水力・太陽熱・潮流などによる発電）が，こんなにもあったことすら知りませんでした．（女性，50 代）
- 大変有意義でした．ウィットに富み（時に）親しみやすくレクチャーして下さいました．今回，PC で先生方の活動やお仕事ぶりを検索し，さらに興味を持ちました．ますますのご活躍をお祈りいたします．正しいことを常に発信し続けて下さい．（女性，50 代）
- 反原発の運動を大きなうねりにできればと思います．（男性，60 代）
- 大変有意義でした．　（男性，40 代）
- メディアでは聞けない話などを学べてとても役立つ情報が聴けました．また，次回もぜひ参加させていただきたいと思います．（男性，20 代）
- 原発は海を暖める話しを詳しく聞きたい．（男性，40 代）

  【主催者からの回答】原発は，沸騰水型でも加圧水型でもタービンを回した水蒸気は復水器に送られ，そこで海水によって冷やされ水に戻り，再び原子炉（加圧水型では蒸気発生器）に送られます．復水器では海水は冷却材として働いていますが，海水自身は水蒸気によって温められることになります．海水は，復水器を通る間に約 7 ℃上がるといわれています．この温められた海水を温排水と呼び，海水中の生物に影響を与えることが懸念されています．
- 保安院など規制機関を確立する必要が緊急にあると思っています．（男性，50 代）
- 原発については好むと好まざるに関わらず時代の流れとして暗黙の了解をしてきたはずである．今回の原発事故があったからといって原発過敏症的になるのは，それを政策として行ってきたことを他人の責任ととらえることはおかしいと思う．（男性，60 代）
- ４月のアクロス福岡でも聞きましたが，いまは「学術的」な話しより，市民がどう感じているかをもっと考慮する必要があるのでは？（男性，60 代）
- ３講師の先生は，いずれも勉強になりました．そして，玄海原発の危険性に対して不安と恐怖が募りました．（男性，60 代）
- 次回開催場所はどこか知らないが，会場への矢印等表示してもらいたい．（男性，70 代以上）

  【主催者からの回答】道案内の掲示は出していたのですが，文字や矢印が小さくてお役に立てなかったようです．次回からその点にもついて気を付けて準備します．
- 代替エネルギーに切り替えまでをどのような時間と手法によって進めるか，むずかしい問題ですね．それまでは「忍」の問題ですか．（男性，70 代以上）
- 科学者会議として力強いメッセージを発して下さい．（男性，50 代）
- 客観性もそこそこあって面白く聞きました．（男性，60 代）

  【主催者からの回答】客観性を「そこそこ」評価いただき有り難う御座います．
- 効率的に利用可能なエネルギーを取り出すには原発しかない．原発が本当に，または原理的に使い物にならないのか考えてほしい．原発を他の自然エネルギー並に安全にする技術は確立できると思われる．原発がダメというなら，誰か原発は将来的にも危険で使用に耐えない，こういうことを証明すべき．（男性，70 代以上）

  【主催者からの回答】残念ながら現在の地球人の到達技術では核分裂によって生成される「死の灰」をコントロール出来いるところまでには至っていません．しかし，このことは将来においてコントロールする技術を地球人が獲得する可能性を否定するものではありません．なので，その時までウランを無駄に使用することを控えた方がよいというのが私たちの考えです．
- 第２回の開催というものでしたが，その開催趣旨をもっと明確にすべきだったと感じます．もっと他者論説によらず，もっと自分に誇りを持った説明を期待していた．反対だとか圧力団体とかも必要でしょうが，善良な市民が本当に安心して生活できるものにしたいものです．日本人は有史以来素晴らしい面を備えていますがなんといってもまだ西洋ものに潜在的なコンプレックス DNA として持っている．海外先進国のものが素晴らしいということはない筈だ．自然を押さえ込むことやコントロールすることは無理であることを改めて思い直し実行することだ．日本の自然を活用したエネルギーを緊急に開発すべきだ．（男性，60 代）

【主催者からの回答】確かに，今回のシンポジウムの話題は焦点が定まっていなかったかも知れません．はじめにシンポジウムのタイトルと「福島第一原発事故の警鐘と玄海原発」したように，この点を中心に据える予定でした．しかし，食物の放射能汚染の問題が大きな問題としてクローズアップされるようになり，食物の放射能汚染から家族をどう守るかという話しを入れることにしました．２つの話しを一緒にしたので，シンポジウムの趣旨が明確にならなかったものとおもいますが，どちらの話しも多くの方が興味を持っていただくものと考え準備しました．

「もっと他者論説によらず，もっと自分に誇りを持った説明を」という点について一言いわせてもらいます．現在では学問は細分化され，自分の専門分野においては，それぞれオリジナルな考えを展開することが可能です．しかし，それらの考えをもう少し広い分野の中で位置づけて他者の論理との切り結びの中でより一般的な議論を展開していくことが，いま大切になってきています．今回のシンポジウムにおける３名の講演者には，それぞれ講演者の専門を越えてもう一つ広い分野における講演をお願いしました．お気づきだと思いますが，狭い専門分野の中の議論でやってきた結果が今回の福島原発事故です．安全な社会を維持していくためには，個々ばらばらな専門分野の成果のみに依存した体制ではなく，それらを一定の理念のもとに統合して安全性を高めていくことが必要です．これまでの「他者」の学問的成果や技術を，「国民の生活やいのちをどう守っていくか」という観点からまとめて展開いただいたのが今回の３講演です．これは，思ったほど簡単なことではありません．「他者」の学問的成果や技術を継ぎ接ぎして出来るものではないのです．学問の世界ではある専門分野に関して関連する周辺分野も含めたレビュー論文を書く場合がありますが，そのような論文は優れた研究者が書くのが一般です．優れた研究者でなければ，面白いストーリーを書くことが出来ません．幅広い分野についての造詣とともに確固たる哲学がなければ，このような論文や講演は陳腐なものになってしまいます．今回の３講演はどれもそんな陳腐なものではなかったと自負しています．

- 生きていくうえで大切な食物，何を食べていいのか不安が主婦には一大関心事．今回のいわゆる「汚染牛」の件，まさに「原発汚染牛」だと思う．牛が悪いのではない．生産者が悪いのではない．そもそもの原因は原発．一日も早く止めること．生産者だけを悪者にしてはいけない．御用学者は「１度２度食べても大丈夫」という．でも「小さい子にとってどうなのか」，「空気も吸う，水も飲む」このことを言っていない．マスコミや学者（今日の方は別）の言うことは信用できない．「安全なものしか出回っていないはず」というのは間違いでは？　わらの上だけにセシウムが降っているはずはない．（女性，60 代）

【主催者からの回答】疑問は確かにその通りです．放射性セシウムは，わらの上だけに降っているわけではないでしょう．その意味で，放射能汚染が心配される地域の放射線量の測定や食品の放射線測定の実行体制を政府や地方自治体にきちんと取らせることが必要と考えます．いまの行政組織はアップアップで頼りにならない面もありますが，国民の健康と安全を守るためには，「安全なものしか出回っていない」状態を行政組織にすぐにでも取らせないといけないと思います．いまの行政の放射線防護における最大の問題点は，内部被曝に対する防護を軽くみているということです．この点は，すぐには改善される見通しはないと思われますので，私たち一人ひとりが，自分で判断していかなれればならないと思います．

- 三池炭坑関連の研究をしているものです．50 年代後半に始まったエネルギー革命は，あれほど労働者の貧困をつくりだし，また産炭地の疲弊をつくりあげたことと釣り合うものであったのか疑問です．石炭資源は国内で算出可能な唯一といってよいほどのエネルギー資源と思いますが，あっけなく手放してしまい（北海道では再開発しています），クリーンエネルギーといわれる原子力を導入しましたが，それが今回の結果です．自国のエネルギー資源を手放すことがどういうことなのか，再びとりあげる必要があると思います．（イギリスでも国内炭坑すべてを閉山するようなことはしていません）．また，原発労働者の問題についても考える機会があればと思います．三池の労働者（三川鉱炭じん爆発事故という戦後最悪の労災被災者となった人々）を調査して思うことですが，たとえ彼らがガンなど発症しても労災として取り扱われることはほとんどないでしょう．原発事故が早期に収束することは私たちの願いではありますが，現場で労働者が無理な労働に従事させられているのではないかと危惧しています．もしも研究者がこの問題に着目せず，現状をやむなしとするのであれば，私たちもまた長きにわたって彼らを殺しているのだと思います．放射能から自分たちを守るのはもちろんですが，もっと広く政府の無策や企業の利潤追求のあと始末をさせられている労働者と彼らの家族にも気持ちを向けていく必要がありましょ

う．私たちの学問は，人々の生活やいのちを害するために存在しているのではないと思います．そう考えて学位授与を受けてすぐ科学者会議に入会しました．先生方に学びながら自分の役割を果たしていきたいと思います．今後ともよろしくお願いします．（女性，30 代）
【主催者からの回答】日本科学者会議の会則２条４項では，「科学の反社会的利用に反対し、科学を人類の進歩に役立たせるよう努力する」ことを会の重要な目的と定めています．この点で努力することが私たちの喜びでもあります．ともに学びながら研究や活動を楽しみましょう．

なお，アンケートとは別にメールを通して，今回のシンポジウムが「社会に対して何の具体的な働きかけにもなっておらずナンセンス」であるという批判的な意見をいただきました．

地震列島である日本のどこでも今回の福島原発事故ような過酷事故が起きる危険性があることを参加者に伝えることが出来れば，今回のシンポジウムの意義があると考えていたこれまでの私たちにはない新しい観点かと思います．この批判的意見についても咀嚼して今後の活動に活かしたいと思います．

3　「日本の科学者」読書会 5,6 月例会の報告

５月号読書会　5 月 9 日午後 2 時〜5 時（ふくふくプラザ 604 室）

＜特集＞諫早干拓堤防の開門と有明海再生の課題

佐々木論文と東論文では，諫早干拓堤防開門による有明海再生の期待を，それぞれ，海洋物理化学的メカニズムと底生生物の経年変化の調査から論じている．両論文とも「順応的管理」による開門調査の意義を強調している．順応的管理とは，少しずつことを進めて，その結果を見ながら次に進む慎重な方法のことである．

＜佐々木論文＞

諫早湾干拓事業にともない，有明海の漁獲量は激減．諫早湾は赤潮と貧酸素の海となり，タイラギ漁獲量は皆無となった．諫早湾の環境悪化が有明海奥部の赤潮と貧酸素を引き起こしたと考えられる．堤防水門を開けて海水を導入する１年以上の開門によって調整池内の二枚貝が発生し，浄化機能が回復，水質の改善することで，諫早湾や有明海奥部の赤潮や貧酸素水塊発生が期待されるとする．

＜東論文＞

1mm 以上の底生生物（マクロベントス）についての，調整池および有明海奥部における経年変化（潮止め前から最近まで）の詳細な調査から，開門調査の意義を論じている． 2002 年における短期開門後のマクロベントスの激増の調査結果が報告されている．これはその捕食者である魚類の増減に関係すると思われるが，開門が短期であったため魚類の増減については未解明だという．長期間の常時開門によりこれらの未解明な点の検証が待たれる．その上で開門の早期着手は喫緊の課題であり，有明海再生の第一歩であるという．

＜堀論文＞

「よみがえれ！有明訴訟」において，2010 年 12 月 6 日の福岡高裁開門判決とその確定により，開門から再生へという道筋ができた．その訴訟の経過を報告している．漁民，市民，研究者，環境 NGO がそれぞれの分野で力を尽くし，それらの力を結集できたことが大きいという．

＜宮入論文＞

諫早湾干拓事業が，いくども事業目的と事業内容を変えながら推移してきた歴史を振り返る．

６月号読書会　6 月 13 日午後 2 時〜5 時（ふくふくプラザ 604 室）

＜特集＞東日本大震災における原子力災害
＜特集＞日本の介護の社会化を問う

はじめは，介護の問題についてやる予定であったが，3.11 震災にともなう原子力災害の特集が緊急に組まれ

たこともあり，その緊急特集を中心に読書会を行った．

＜清水論文＞では，事故の経過をたどり，汚染の広がりと被害の拡大の現状を報告している．補償の問題では，原子力損害賠償法による「異常に巨大な天災地変」を理由とした事業者責任の免責には当たらないという政府見解を支持している．電源開発促進税や高レベル廃棄物最終処分場建設のために積み立てている基金も損害賠償にあてるべきとする．原子炉の安全性の見直しや原子力防災の見直しは当然として，「原子力に頼らない地域復興」のビジョンをどう描いていくかが重要という．

＜深尾論文＞では，水蒸気でタービンを回し発電するという点では，火力発電と原子力発電（原発）は同じだが次の２点で大きく異なるという．一つは，原発では核反応が停止しても大量の崩壊熱を出し続けること（停止１年後でも相当量の熱を出すという），もう一つは，原発では数年分の燃料があらかじめ炉内に装されており，事故が起きてもそれを取り出すことは出来ないことであるという．４号炉では燃料プールから，２号炉では炉心から放射性物質が出たのであるが，１号炉と３号炉でははっきりしないという．これは，放射科学の研究者の協力があれば容易に判断でき，事故の経緯を知るうえで重要な手がかりになるという．東電や政府からの情報が不十分で，外国メディアは，「独立した源から得たニュースを総合すれば」といったの報道を行っているという．事故に関わるあらゆる項目を列挙し，重要性の順位付け，点検・指示ができる危機管理システムの構築が必要と力説する．最後にこれまでの度重なる法律違反を含めた東電の事故隠しの体質を告発している．

＜沢田論文＞では，内部被曝の問題を取り上げている．福島第一原発事故による放射線被害は，広島・長崎での放射性降下物による被曝と共通性があるという．これまで，日本政府は放射性降下物による被曝を無視してきたが，最近の原爆訴訟において，国は負け続けている．その理由は，爆心地より 1.2km 以上の遠距離においては，放射性降下物による内部被曝の影響が大きいということを立証し，その点を原告側証人として証言していることが大きい．放射性降下物による内部被曝の無視は国際放射線防護委員会 (ICRP) の内部被曝の軽視と今回の原発事故での内部被曝影響の軽視につながっているという．

＜生井論文＞では，政府や東電には過酷事故時における農と食についての対策のない点を鋭く指摘するとともに，少なくない関連学会の「権力迎合」体質を告発している．例えば，日本原子力学会は，「原子力が人類のエネルギー問題解決に不可欠」，「１回の被曝量が 100mSv 以下でガンの増加なし」といい，日本放射線影響学会は，「100mSv の放射線を被曝しても，人が一生の間にかかるガンの 0.5% ぐらいが上積みされるだけだから，リスクは非常に少ない」が，「正確には低線量放射線の生体影響研究は今後の進展が必要」などと矛盾したことを云っている．セシウム 137 やストロンチウム 90 の放射性物質が地面に降下した後の挙動を概観している．土壌のコロイド粒子は負に帯電しているため，セシウム 137 やストロンチウム 90 の陽イオンを蓄積しやすい．水稲はセシウム 137 を特異的に吸収し，セシウム 137 は，腐植土壌に吸着しにくく，シダ類・コケモモ・キノコに吸収されやすいという．また，ヒマワリは，セシウム 137 やストロンチウム 90 をよく吸収・蓄積するという．最後に，原発事故の収束と市民の安全と脱原発に向け，積極的に行動することを，科学者・技術者に呼びかけている．

（三好記）

4 行事案内

4.1 JSA 若手夏の学校 2011 in 沖縄

今年も夏の学校が開催されます。嘉手納基地や普天間基地のフィールドワーク、前宜野湾市長の伊波洋一さんの講演会など、盛沢山の企画が準備されています。詳しい内容は http://www.jsa.gr.jp/05event/natu-index.html を御覧下さい。参加希望の方は JSA 福岡事務局・青野 (092–802–3281) まで御連絡下さい。

開催日時： 2010 年 9 月 9 日 (金)12:30〜12 日 (月)12:00 迄
宿泊場所： 沖縄青年会館
集　　合： 9/9(金) 16:45 に沖縄青年会館に集合
参 加 費： 20,000 円 (オプショナルツアー込み), 17,000 円 (オプショナルツアー無し)

4.2 第３回原発シンポジウム　「原子力発電と代替エネルギーの展望」

福島原発事故以降，地震国日本において安全な原発は存在しないということが，ますます，明確になりつつあります．そのような中で九州大学において自然エネルギーについて優れた研究をしている２名の研究者の講演を聴き，原子力発電に対しての代替エネルギーの展望を探るシンポジウムを開きます．

講　演　大屋裕二（九大）「風力エネルギーの有効利用と将来展望」
　　江原幸雄（九大）「地熱エネルギー利用の現状と将来展望」
　　青野雄太（九大）「自然エネルギーの潜在力と脱原発」
と　き　2011 年 10 月 29 日（土）午後２時〜
ところ　未定
参加費　500 円
主　催　日本科学者会議福岡支部
問合せ　092-642-3901（小早川）, e-mail: eisaku.miyoshi@kyudai.jp

4.3 「日本の科学者」読書会 (http://web.me.com/emiyoshi3/JSA_Fukuoka/Dokushokai/Dokushokai.html)

毎月、第 2 月曜 14〜17 時、ふくふくプラザ (福岡市中央区荒戸３丁目３番３９号福岡市市民福祉プラザ) で開催しています。9 月例会は 9 月 13 日、10 月例会は 10 月 11 日です．ふるってご参加下さい。

4.4 エネルギー研究会 (http://solid.mech.kyushu-u.ac.jp/~aono/jsa_fukuoka_energy/)

8 月 27 日 (土)14〜17 時、第 46 回例会を行ないます。玄海原発 1 号機・圧力容器の劣化をテーマに議論したいと思います。関心のある方の参加をお待ちしています。

4.5 反核医師の会・記念講演会

反核医師の会から記念講演の案内が届きました。一般参加歓迎です。資料準備のため事前申し込みが必要です。

テーマ　福島原発事故の意味するもの
講　師　藤田 祐幸氏 (元慶応大学助教授, 現長崎県立大学シーボルト校非常勤講師)
と　き　８月２７日【土曜日】１６時〜１７時３０分
ところ　アクロス福岡６階６０８会議室, 092(725)9113
参加費　無料（事前にお申込下さい）
主　催　核戦争防止・核兵器廃絶を求める福岡県医師・歯科医師の会
　　福岡県保険医協会／非核・平和部対策部
問合せ　福岡県保険医協会, 092(451)9025, 福岡市博多区博多駅南１－２－３－８

※ 8/23(火)〜28 日 (日) の期間は「2011 年平和のための戦争展ふくおか」が開催中です。（会場：アクロス福岡）